

# すべての人に最高の余暇を

## Contents

- 01 会長メッセージ
- 03 トップインタビュー
- 07 (株)デジタル・フロンティア  
植木社長インタビュー
- 08 企業の社会的責任(CSR)への取り組み
- 09 連結財務諸表(要約)
- 11 コーポレートデータ
- 12 株式情報
- 13 IRコミュニティ
- 14 第三者によるフィールズの分析レポート



すべての人に最高の余暇を

The Greatest Leisure for All People



山本 英俊

代表取締役会長 (CEO)

山本 英俊

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素より格別のご支援、ご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

21世紀の成熟化する社会は、医療やテクノロジーの進化が長寿命社会をもたらし、増加をたどる余暇時間に人々は多様な時間消費のニーズを生み出し続けています。

「すべての人に最高の余暇を」という企業理念を掲げる当社は、多くの人々の幸せに寄与することで自らの成長を見出せるという想いのもと、増加する余暇時間にエンタテインメント性の高い商品やサービスを提供しています。とくに、当社は未来の人々の心を豊かにする余暇のあり方の調査・研究を重ねており、最先端のクリエイティブや最新のテクノロジーを結集・融合し、あらゆる要素の複合化を行い自らが市場を切り拓き新たな顧客層を創造すること、つまり新たなエンタテインメントの創出に向けた挑戦を続けています。

2003年の株式上場時、当社は将来的な成長を牽引する一つの戦略として、コンテンツを中核としたビジネススキームを掲げました。そこから様々な経験と着実な進歩を経て幅広いエンタテインメント領域に進出している現在でも、このコアモデルは進化を遂げながら力強く生き続けています。

2011年3月期上半期には、このスキームを深化・確立させるために多様な専門分野に秀でた(株)円谷プロダクション等の3企業を新たに当社グループへ迎え入れるとともに、パートナー企業との連携をより一層加速させる等、将来の来るべき飛躍に向けた諸施策を推進しました。このような未来への布石の一つひとつが長期的ビジョンの実現につながり、当社グループの収益機会の創出及び企業価値の向上に結び付くものと確信しています。

私たちは、新鮮な感動や驚きを体験できるエンタテインメントの創造によって、余暇市場全体の発展、そして社会全体の幸せに寄与し、大きな成長を遂げられるよう全社一丸となって邁進していきます。これまでも私たちフィールズの企業理念にご賛同賜り、お力添え頂きました株主の皆様には深謝いたしますとともに、当社グループが次世代に向けた挑戦によって切り拓く未来にご期待頂き、引き続きのご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

2010年12月



代表取締役社長  
(COO)

大屋 高志

➡ P.3~4、P.6

大屋 高志



専務取締役  
(グループ事業管掌 兼 事業本部長)

繁松 徹也

➡ P.5

繁松 徹也

### ■ 2011年3月期 上半期の総括

株主の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。本株主通信をお届けするにあたり、まずは平素のご支援、ご愛顧に深く感謝申し上げます。

さて、当上半期の連結業績においては、おかげさまで好調に推移し、売上高が43,012百万円(前年同期比100.6%増)、営業利益が9,182百万円(同70.5%増)、経常利益が9,503百万円(同88.1%増)、四半期純利益が5,428百万円(同148.8%増)となりました。

前年同期と比較すると、売上面においては、パチスロ遊技機販売が好調に推移したこと、また、本年4月に(株)円谷プロダクション、(株)デジタル・フロンティアの2社を連結子会社化したことにより増収となりました。利益面においても、パチスロ遊技機販売が好調に推移したことに加え、パチンコ遊技機販売の主力タイトル「CRエヴァンゲリオン」シリーズの最新作が20万台を超えるヒットとなったことで増益となりました。

なお、グループ事業においては、これまでの各種施策が奏功し、映像、モバイル、アニメ、出版、スポーツ等の各領域でシナジーのある事業化が顕著になりました。当上半期より当社グループに迎え入れた(株)円谷プロダクション、(株)デジタル・フロンティア、(株)ヒーローズにおいても、すでに新プロジェクトが始動しており、高付加価値コンテンツの創出はより一層加速していくと確信しています。

## ■ パチンコ・パチスロ事業の取り組み

パチンコ・パチスロ市場において、パチスロ遊技機はゲーム性やエンタテインメント性が高められた遊技機の登場が続ぎ、新台導入の意欲が高まると同時に稼動も上昇に転じる等、市場全体としては本格的な回復基調を迎えつつあります。

このような中、前期末(2010年3月)に発売したパチスロ遊技機「新鬼武者」、「新世紀エヴァンゲリオン～魂の軌跡～」の両機においては、そのゲーム性やエンタテインメント性に対して市場から高い評価を頂いています。とくに、「新鬼武者」については、パチスロ市場を牽引する代表的な遊技機に成長し、発売から半年以上経過した当期においても継続して受注を頂きました。

一方、パチンコ遊技機はファン層拡大につながるエンタテインメント性豊かな遊技機や安定的に稼動を促進する遊技機が望まれており、これらのニーズに応える遊技機の提供に注力しています。

当上半期においては、第1四半期にシリーズ最新作のパチンコ遊技機「CRエヴァンゲリオン～始まりの福音～」を発売し、前作に引き続き20万台を超える大型ヒット機種になりました。また、パチスロ遊技機では、ロデオ10周年記念タイトル第2弾として「ガメラ」を発売しました。

第2四半期は、パチンコ遊技機「CR清水の次郎長 Light ver.」、パチスロ遊技機「アベノ橋魔法☆商店街」を発売しました。

これらの結果、当上半期のパチンコ遊技機総販売台数は226,620台、パチスロ遊技機総販売台数は66,508台となりました。

エンタテインメント領域を事業の中核とするグループ事業につきましましては、専務の繁松からお話しさせていただきます。

### パチンコ・パチスロ遊技機の販売タイトル

#### ■ パチンコ遊技機

##### ビスティ アニメ

CRエヴァンゲリオン  
～始まりの福音～



©カラー ©Bisty

##### ビスティ TV

CR清水の次郎長  
Light ver.



© Fields ©Bisty

#### ■ パチスロ遊技機

##### ロデオ 映画

ガメラ



©角川映画  
©1995角川映画NH  
©1996角川映画NHFN  
©1999角川映画TNHN  
©Sammy ©RODEO

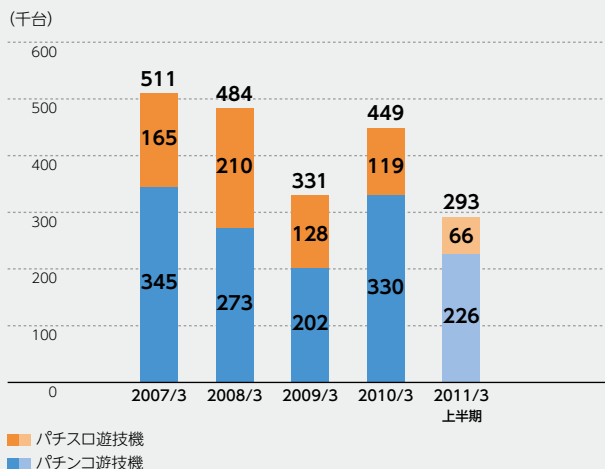
##### ビスティ アニメ

アベノ橋魔法☆商店街



©GAINAX  
©アベノ橋製作委員会  
©Bisty  
©Fields

### 販売台数の推移



## ■ グループ事業の取り組み

グループ事業においては、社長の大屋からご説明いたしました通り、ビジネススキームを加速させるため(株)円谷プロダクション、(株)デジタル・フロンティア、(株)ヒーローズを当社グループに迎え入れました。

各社の概況としては、(株)円谷プロダクションは、当社との人的交流を活発化しIP(知的財産)価値の最大化を図っています。(株)デジタル・フロンティアは、映画・ゲーム・遊技機において映像テクノロジーを発揮するとともに、当社商品においても新プロジェクトをスタートさせました。また、(株)小学館クリエイティブと設立した新出版会社(株)ヒーローズは、IP創出の要となるコミック誌の創刊に向けた体制構築が着実に進捗しています。

一方、モバイル分野では、当期の注力事業の一つとして有料会員数の拡大を推し進めています。主力の「フィールズモ

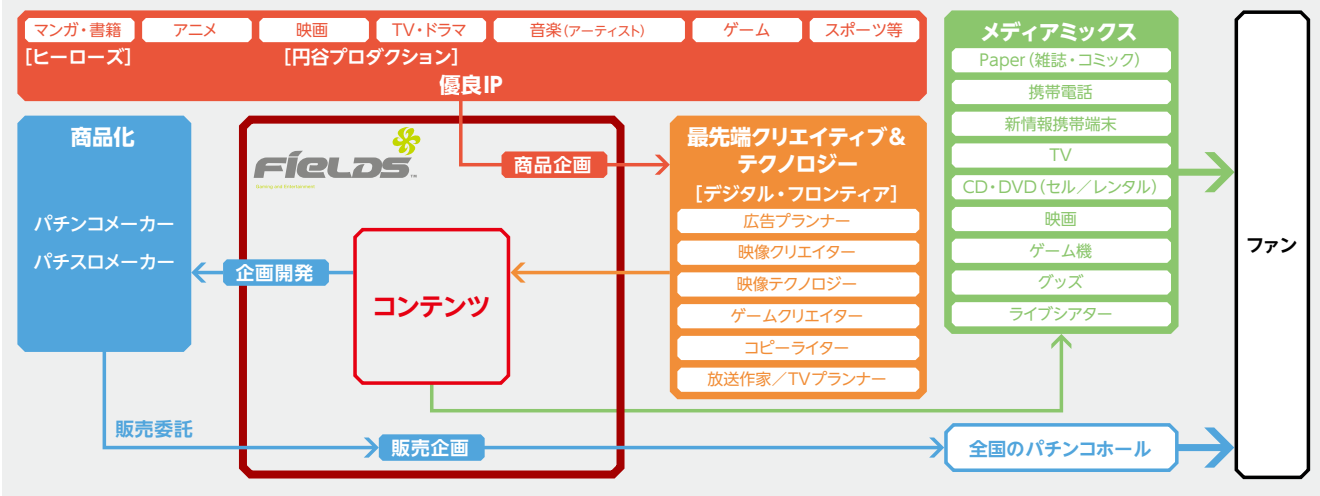
バイル」は順調に推移しており、新しいコミュニケーション文化の創出を目指した携帯コンテンツ「写メ字」はサービスを開始しました。

また、スポーツ分野では、アスリートマネジメント事業が所属アスリートの新規契約を推進することで収益機会を創出しており、「トータル・ワークアウト」がサービス品質の向上に努めることで顧客を獲得しています。

今後については、優良なハイブリッドコンテンツの創出に向けて積極的に事業を展開することで、自らが世の中の人々に感動と興奮を提供するエンタテインメントを創出したいと考えています。

株主の皆様におかれましては、幅広いエンタテインメント領域で挑戦を続けるフィールズグループにご期待頂き、引き続き一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

### ビジネススキーム(新規グループ会社の位置付け)



## ■ 2011年3月期 通期の見通し

連結業績の見通しは、売上高が100,000百万円(前年同期比50.7%増)、営業利益が13,000百万円(同60.0%増)、経常利益が13,000百万円(同67.5%増)、当期純利益が7,000百万円(同112.8%増)を見込んでいます。

当初計画と比較しますと、売上面及び利益面ともに大きく上回る見込みですが、これは当上半期の業績に加え、パチスロ市場が本格的に回復基調にあること、グループ各社の業績が一般的に堅調に推移していることを勘案した結果となっています。パチンコ・パチスロ事業においては、ロデオ10周年記念タイトル第3弾「俺の空～蒼き正義魂～」をはじめとしたゲーム性、エンタテインメント性の高い大型パチスロ遊技機を複数販売していきます。また、グループ事業においては、通期で連結業績への寄与を見込む一方、高付加価値コンテンツの創出を推進し、さらなる成長の実現を目指していきます。

なお、利益配当金については、安定かつ利益に応じた配当の実施を基本方針に定めています。今般、おかげさまで当上半期の業績も好調に推移しており、株主利益に貢献すべく第2四半期末の1株当たり配当金は500円増配し、2,500円としています。これにより1株当たり年間配当金は、期末配当金予想2,500円を含め5,000円を予定しています。株主の皆様には心より感謝申し上げます。

最後になりますが、私たちフィールズは「すべての人に最高の余暇を」という企業理念に則り、社会にとって有意義な企業として持続的な成長を実現させていきます。

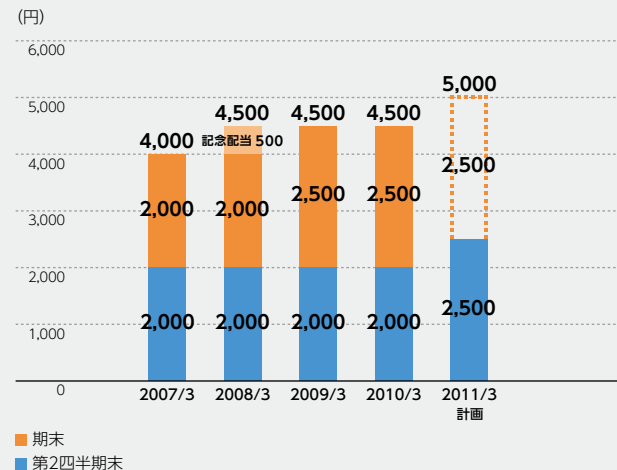
株主の皆様におかれましては、私たちフィールズが仕掛ける様々な施策にご期待頂き、引き続き一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

### 2011年3月期 連結業績の見通し

(単位:百万円)

	2010年3月期 (実績)	2011年3月期 (計画)	増減率(%)
売上高	66,342	100,000	+50.7
営業利益	8,124	13,000	+60.0
経常利益	7,761	13,000	+67.5
当期純利益	3,289	7,000	+112.8

### 1株当たり配当金の推移



## (株)デジタル・フロンティア 植木社長インタビュー



代表取締役社長  
植木 英則



### 会社概要

社名: (株)デジタル・フロンティア  
設立: 2000年5月  
資本金: 31百万円



サマーウォーズ  
©2009 SUMMERWARS  
FILM PARTNERS



デスノート  
©2006 「DEATH NOTE」  
FILM PARTNERS  
©大場つぐみ・小畑健/集英社

業界屈指の映像クオリティで、  
多くの人々の幸せに寄与していきます。

私たち(株)デジタル・フロンティアは、1994年に大手CM制作会社の今後の成長を担う映像部門として、その歩みをスタートしました。CG(コンピュータ・グラフィックス)技術を核に事業を拡大させた私たちは、2000年に独立し、業界屈指の映像制作企業として成長を続けています。

当社の強みは、幾多の映画・ゲーム・遊技機の映像制作で培われたノウハウと、最新鋭の映像テクノロジーによって実現するクオリティの高さです。これまで国内の劇場用映画において、フルCGで制作した作品数は業界最多の実績を誇り、アジア最大規模の最先端モーションキャプチャスタジオも自ら保有します。

今般、当社はフィールズグループに加わりましたが、すでに遊技機の映像分野で連携を強めており、フィールズが企画開発する遊技機の映像制作に着手しています。高度な技術を要する映像制作においては、業界トップクラスの映像クオリティを実現できると確信しており、是非ともご期待頂きたいと思えます。

一方、当社は「自らの技術を用いて、日本独自のIP(知的財産)を世界に発信する」という目標を掲げており、フィールズグループが目指す高付加価値コンテンツの創出にも大きく貢献できると考えています。今後は、この実現に向けた挑戦を続け、来るべき未来にデジタル・フロンティアという社名を世界に広げていきたいと考えています。

最後になりますが、当社はエンタテインメントの創出に携わる企業として、多くの人々に喜んで頂きたい、多くの人々の幸せに寄与したいという想いを込めてモノ創りに努めていきます。

株主の皆様におかれましては、私たちの成長にもご期待頂き、一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



# 企業の社会的責任(CSR)への取り組み

## CSRに対する基本的な考え方

当社は、増加をたどる余暇時間を充実させるエンタテインメント性溢れる商品やサービスを通じて「すべての人に最高の余暇を」提供することを使命としています。そして、そのための取り組みを持続的に行うことが、皆様一人ひとりの豊かさのみならず社会全体の豊かさの創造に寄与するものと確信し、事業活動を行っています。これが、当社における企業の社会的責任(CSR)に対する基本的な考えです。

当社は、この基本的な考えに基づく事業活動の浸透と、企業の社会的責任を果たすことを目的として、2008年5月に全社横断的な組織であるCSR委員会を設置しました。

今後も社会的責任を重んじたCSR活動を推進することで、様々なステークホルダーの皆様、社会の皆様に貢献できるよう努めていきます。

## ● 2010年4月から10月までの取り組み

- 社用車のエコカーへの切替促進
- チャリティゴルフトーナメントに協賛
- クールビズ(軽装)の推進
- 品質マネジメントシステム最新規格「ISO9001:2008」へ移行
- 情報セキュリティマネジメントシステム「ISO27001:2005」の認証を更新
- 「チャレンジ25キャンペーン」へ参加



「ISO9001:2008」認証状



「ISO27001:2005」認証状

## 社会貢献活動トピックス

当社は地域環境活動推進の一環として、社内ボランティアを募り、各地の清掃活動に参加しています。

9月11日には、海の漂着ゴミ問題に世界規模で取り組むNGOが主催するイベント「鵜沼海岸(神奈川県)クリーンアップキャンペーン」に、当社社員やそのご家族34名が参加し、漂着ゴミの収集・分類活動に従事しました。10月5日には、本社所在地の東京都渋谷区において区と区民、事業者が一体となって行う「きれいなまち渋谷をみんなでつくる条例 10.5 啓発キャンペーン」に当社社員10名が参加し、渋谷駅周辺の清掃や分煙ルール啓発活動を行いました。

今後もこのような活動を本社だけでなく各支社・支店でも行い、地域社会への一層の貢献に努めていきます。



鵜沼海岸(神奈川県)での清掃活動風景

# 連結財務諸表(要約)

## 連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度末 2010年3月31日現在	当第2四半期連結会計期間末 2010年9月30日現在	増減額
<b>資産の部</b>			
流動資産	56,694	39,514	△17,180
固定資産	24,634	27,750	+3,116
資産合計	81,329	67,265	△14,064
<b>負債の部</b>			
流動負債	35,845	17,028	△18,817
固定負債	4,295	4,526	+231
負債合計	40,141	21,555	△18,586
<b>純資産の部</b>			
株主資本	41,741	46,339	+4,598
評価・換算差額等	△676	△832	△156
少数株主持分	122	203	+81
純資産合計	41,187	45,709	+4,522
負債純資産合計	81,329	67,265	△14,064

### 流動資産の主な差異

「受取手形及び売掛金」が、売掛金の回収等により前期末から24,116百万円減少し8,972百万円となりました。

また、「現金及び預金」は、前期末から5,916百万円増の21,832百万円となりました。

### 固定資産の主な差異

「無形固定資産」が、(株)円谷プロダクション及び(株)デジタル・フロンティアの株式取得に伴うのれん資産等により前期末から2,511百万円増の4,844百万円となりました。

### 流動負債の主な差異

「支払手形及び買掛金」が、パチスロ遊技機の仕入れに伴う買掛金の支払い等により前期末から20,074百万円減の6,536百万円となりました。

### 株主資本の主な差異

「利益剰余金」が、四半期純利益の計上に伴い前期末から4,598百万円増の32,181百万円となりました。

### 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、(株)円谷プロダクション及び(株)デジタル・フロンティアの株式取得等により2,738百万円の支出となりました。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 2009年4月1日から 2009年9月30日まで	当第2四半期連結累計期間 2010年4月1日から 2010年9月30日まで	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,160	11,199	+1,039
投資活動によるキャッシュ・フロー	△350	△2,738	△2,388
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,199	△2,580	△1,381
現金及び現金同等物に係る換算差額	△8	△4	+4
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	8,602	5,875	△2,727
現金及び現金同等物の期首残高	11,181	15,906	+4,725
現金及び現金同等物の四半期末残高	19,784	21,782	+1,998

## 連結損益計算書 (セグメント情報含む)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 2009年4月1日から 2009年9月30日まで	当第2四半期連結累計期間 2010年4月1日から 2010年9月30日まで	増減率(%)
<b>売上高</b>	<b>21,444</b>	<b>43,012</b>	<b>+100.6</b>
PS・フィールド	19,415	38,499	+98.3
モバイル・フィールド	991	1,059	+6.9
スポーツエンタテインメント・フィールド	1,181	1,082	△8.4
その他・フィールド	259	2,615	+909.7
消去又は全社	△403	△243	—
売上原価	8,335	24,020	+188.2
売上総利益	13,109	18,991	+44.9
販売費及び一般管理費	7,722	9,809	+27.0
<b>営業利益</b>	<b>5,386</b>	<b>9,182</b>	<b>+70.5</b>
PS・フィールド	5,407	9,109	+68.5
モバイル・フィールド	247	199	△19.4
スポーツエンタテインメント・フィールド	△162	△140	—
その他・フィールド	△17	58	—
消去又は全社	△89	△44	—
営業外収益	280	469	+67.5
営業外費用	615	148	△75.9
<b>経常利益</b>	<b>5,051</b>	<b>9,503</b>	<b>+88.1</b>
特別利益	73	406	+456.2
特別損失	477	182	△61.8
<b>税金等調整前四半期純利益</b>	<b>4,647</b>	<b>9,727</b>	<b>+109.3</b>
法人税等	2,448	4,302	+75.7
少数株主損益調整前四半期純利益	—	5,424	—
少数株主利益又は少数株主損失(△)	17	△3	—
<b>四半期純利益</b>	<b>2,181</b>	<b>5,428</b>	<b>+148.8</b>

### 売上高

売上高は、前期末発売のパチスロ遊技機「新世紀エヴァンゲリオン～魂の軌跡～」[新鬼武者]の追加受注が継続したことに加え、(株)円谷プロダクション及び(株)デジタル・フロンティアを連結子会社化したことにより、前年同期比100.6%増の43,012百万円となりました。

### 営業利益

営業利益は、好調なパチスロ遊技機販売に加え、パチンコ遊技機「CRエヴァンゲリオン～始まりの福音～」が20万台を超える大ヒットとなったほか、(株)円谷プロダクション及び(株)デジタル・フロンティアをはじめとしたグループ各社の事業も概ね計画通りに進捗したことにより、前年同期比70.5%増の9,182百万円となりました。

### 営業利益—その他・フィールド

その他・フィールドの営業利益は、(株)円谷プロダクション及び(株)デジタル・フロンティアの株式取得に伴うのれん償却費134百万円が計上されていますが、58百万円の黒字となりました。

### 四半期純利益

四半期純利益は、前年同期比148.8%増の5,428百万円となり、1株当たり四半期純利益は16,344円となりました。

# コーポレートデータ

## 会社概要

(2010年9月30日現在)

商号	フィールズ株式会社 (英文社名: FIELDS CORPORATION)
企業理念	「すべての人に最高の余暇を」
設立	1988年6月
本社所在地	〒150-0044 東京都渋谷区円山町3番6号 E・スペースタワー
事業内容	1. 遊技機の企画開発 2. 遊技機の仕入、販売 3. キャラクター、コンテンツの企画開発、販売 4. 映像ソフトの企画開発、販売
資本金	7,948百万円
従業員数	1,102名(連結)
連結対象会社	フィールズジュニア(株) (株)フューチャースコープ ジャパン・スポーツ・マーケティング(株) ルーセント・ピクチャーズエンタテインメント(株) (株)円谷プロダクション (株)デジタル・フロンティア 他 8社

## 役員

(2010年10月1日現在)

代表取締役会長	山本 英俊
代表取締役社長	大屋 高志
専務取締役(グループ事業管掌 兼 事業本部長)	繁松 徹也
専務取締役(PS事業管掌)	秋山 清晴
常務取締役(開発本部長)	栗原 正和
社外取締役	糸井 重里
取締役(計画管理本部長)	山中 裕之
取締役(コーポレート本部長)	伊藤 英雄
取締役(営業本部長)	藤井 晶
取締役(会長室長)	末永 徹
社外監査役 常勤	松下 滋
社外監査役	小池 敕夫
社外監査役	古田 善香
社外監査役	中元 紘一郎
執行役員(計画管理本部副本部長)	小澤 謙一
執行役員(コーポレートコミュニケーション室長)	畑中 英昭
執行役員(開発本部副本部長)	藤島 輝男
執行役員(営業本部支店統括部長)	若園 秀夫
執行役員(事業本部事業推進部長 兼 エグゼクティブプロデューサ)	小澤 洋介
執行役員(計画管理本部財務・予算部担当部長)	糟谷 総一
執行役員(開発本部)	黒川 裕介
執行役員 事業本部付 エグゼクティブプロデューサ (株)デジタル・フロンティア代表取締役社長)	植木 英則
執行役員 事業本部付 エグゼクティブプロデューサ (ルーセント・ピクチャーズエンタテインメント(株)代表取締役社長)	鎌形 英一
執行役員 事業本部付 エグゼクティブプロデューサ (ジャパン・スポーツ・マーケティング(株)代表取締役社長)	菊池 伸之

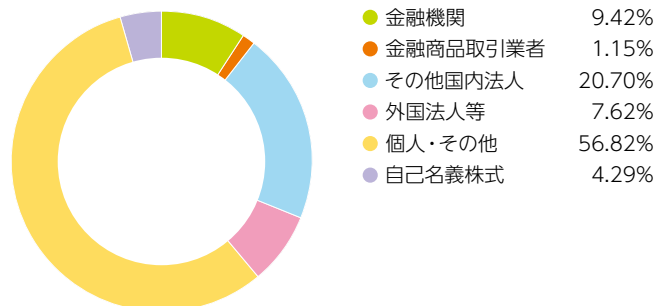
# 株式情報

(2010年9月30日現在)

## 株式状況

発行可能株式総数	1,388,000株
発行済株式総数	347,000株
自己名義株式	14,885株
株主数	10,678名

## 所有者別株式分布状況



## 大株主

株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
山本 英俊	86,750	25.00
(株)SANKYO	52,050	15.00
山本 剛史	36,128	10.41
(有)ミント	16,000	4.61
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	12,987	3.74
資産管理サービス信託銀行(株)(証券投資信託口)	6,247	1.80
大屋 高志	4,500	1.30
野村信託銀行(株)(投信口)	3,933	1.13
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	3,301	0.95
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	2,413	0.70

\*当社所有の自己名義株式は除いています。

# IRコミュニティ

## 個人投資家向けIR活動を推進

当社は個人投資家の皆様とのコミュニケーション活性化に向けて、IRサイトの拡充や個人投資家向け会社説明会の実施等、積極的なIR活動を推進しています。

今秋は大阪及び札幌で個人投資家向け会社説明会を開催し、また(株)大阪証券取引所主催の「JASDAQ Value IR Square 2010」にも参加しました。とくに会社説明会では、社長の大屋から当社のマーケットポジションや事業戦略、今後の成長にかける想いをご説明し、ご来場頂きました多くの皆様からは貴重なご質問並びにご意見を賜りました。

今後も、皆様にとって有意義なIR活動に努めてまいりますので、引き続きご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## ●「個人投資家向け会社説明会」概要

日時	場所	来場者数
9月29日	大阪会場 (ホテルコムズ大阪)	説明会:約150名
10月2日	札幌会場(TKP札幌)	説明会:約130名

協力: モーニングスター(株)

## ●「JASDAQ Value IR Square 2010」概要

10月16日	東京会場 (秋葉原UDXギャラリー)	説明会:約100名 ブース:約230名
--------	-----------------------	------------------------

主催: (株)大阪証券取引所



会社説明会風景(札幌)



「JASDAQ Value IR Square 2010」ブース風景

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	
定時株主総会・期末配当	毎年3月31日
中間配当	毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行(株)
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行(株) 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-78-2031(フリーダイヤル) 取次事務は中央三井信託銀行(株)の全国各支店並びに日本証券代行(株)の本店及び全国各支店で行っております。
上場証券取引所	大阪証券取引所(JASDAQ) 証券コード:2767
公告方法	電子公告 URL <a href="http://www.fields.biz">http://www.fields.biz</a> (事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。)

### ●住所変更のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行(株)にお申出ください。

### ●未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行(株)にお申出ください。

### ●「配当金計算書」について

配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねています。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用頂くことができます。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様に付きましても、本年より配当支払いの都度「配当金計算書」を同封させて頂いています。

\*確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

## 第三者によるフィールズの分析レポート

### 菱葎 矢野経済研究所

(株)矢野経済研究所

主任研究員 石川 誠

パチンコ産業は「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律」に基づく許可業種であるため、永らく業界慣習のなかで何事も完結してしまう「井の中の蛙」状態にありました。こうしたなかフィールズは、旧社名の東洋商事の頃から「10年後のパチンコ産業はどうか」というシナリオを予測、将来的な環境変化に対応するビジョンを業界内に提示し、単なる「パチンコ・パチスロ産業」の発想に留まらず、「余暇産業」そして「エンタテインメント産業」という広い視野から革新的なビジネスモデルを取り入れ、パチンコ・パチスロ産業の近代化、高度化、そして先進化を牽引してきました。常に先を読んで行動する、論理的で機を見るに敏な同社の戦略性は、多くの遊技機メーカーやパチンコホール経営企業を啓発し、単なる遊技機を文化性の高い「作品」へと変貌させる原動力になったと言っても過言ではないでしょう。

そして同社は現在、今までの領域に留まらず、パチンコ産業が日本のコンテンツ産業・エンタテインメント産業とどう融合し、エンタテインメント産業全体の活性化にどうつなげるこ

とができるのか、真摯に考え、布石を打っている感があります。例えばその一つが、コンテンツ制作分野への進出です。CG(コンピュータ・グラフィックス)制作企業や円谷プロダクションの買収、小学館クリエイティブとの共同出資によるコミック誌創刊事業の立ち上げ等はまさにその象徴です。遊技機メーカーはライセンスとしての側面が強く、IP(知的財産)ビジネスに対し、これまで常に受動的な立場でした。しかし自らがコンテンツを創出する立場にまで踏み込まなければ、遊技機メーカーの成長や革新が望めないのも事実です。フィールズはまさにその後押しをしようとしています。

パチンコ・パチスロ産業は、ゲーム産業、映像産業、モバイルコンテンツ産業、半導体産業、玩具製造業との融合が進み、ハードとソフト、リアルとバーチャルが一体となった、新たなコンテンツ産業へと変貌しつつあります。すでに日本のアニメやコミック、ゲーム、アイドル、フィギュア、キャラクターグッズ等の文化はアジア・欧米で人気を博しており、政府も輸出産業として力を入れつつありますが、その延長でパチンコ・パチスロ産業を、日本発のゲーミング&エンタテインメント産業としてグローバル化させることも不可能ではありません。フィールズはまさにその立役者になるのではないのでしょうか。

#### (株)矢野経済研究所

<http://www.yano.co.jp/>

当社は1958年、日本の高度経済成長期の黎明期に、市場調査業のパイオニアとして誕生しました。創業以来、独立・中立を社是とし、今日に至るまで、常に日本経済の発展をマーケティングの側面から支えて参りました。現在も年間200タイトル以上の調査レポートを発刊し、インテリジェンスの提供に努めております。



石川 誠

いしかわ・まこと

日本経済新聞社を経て、1995年に矢野経済研究所入社。入社以来、15年にわたり、パチンコ・パチスロ産業の調査・分析、コンサルティング活動に携わる。



[www.fields.biz](http://www.fields.biz)

すべての人に最高の余暇を

／ 企業理念への想い

VOICE

「すべての人に最高の余暇を」。それは、あらゆる場所を本当に楽しめる場所にする、人々の生活に潤いをもたらす、社会全体の幸せに寄与することです。

パチンコ・パチスロ市場は未だ射幸性に依存する部分もありますが、ファンが求めるエンタテインメント化を促進することで、必ずや社会にとって意義のあるエンタテインメントになるでしょう。私たちフィールズは、企画開発及び流通領域を通じて今後もパチンコの新たな価値を追求していきます。ぜひとも、私たちが切り拓くパチンコの未来にご期待頂き、引き続きご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

文・表紙文字=専務取締役 (PS事業管掌) 秋山 清晴

## IRお問い合わせ先



フィールズ株式会社  
コーポレートコミュニケーション室 IR課  
Tel: 03-5784-2111 (代表)  
Mail: [ir@fields.biz](mailto:ir@fields.biz)



古紙100%再生紙

地球の未来と生まれてくる子供たちのために、  
古紙100%再生紙をより身近なものに。